

## 米国 2年7か月ぶりの大幅な減少（15年3月鉱工業生産）

発表日：2015年4月15日（水）

～自動車生産の回復も他の製造業の弱さや公益の減少により下振れ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

### 鉱工業生産（Industrial Production and Capacity Utilization）

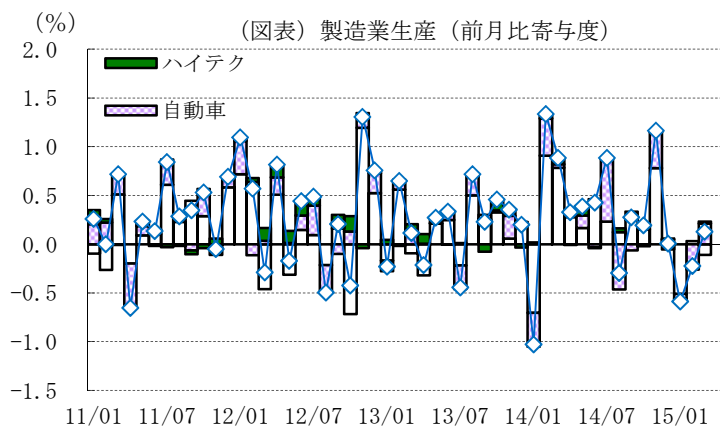
	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率		生産能力	
	前月比	2年7か月ぶり	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力	
14/03	+0.8	(+3.6)	+0.8	+1.7	▲0.5	+0.7	+0.8	+0.3	+79.1	+77.6	+0.2	
14/04	+0.1	(+3.9)	+0.3	+2.1	▲5.1	+1.5	+0.2	+0.2	+79.0	+77.7	+0.3	
14/05	+0.5	(+4.3)	+0.4	+1.0	+0.3	+2.3	+0.4	+2.3	+79.1	+77.8	+0.3	
14/06	+0.4	(+4.5)	+0.4	+1.6	▲2.0	+0.2	+0.5	+0.0	+79.2	+78.0	+0.3	
14/07	+0.3	(+5.1)	+0.8	+0.2	▲3.0	▲0.5	+0.8	+9.4	+79.3	+78.5	+0.3	
14/08	▲0.0	(+4.5)	▲0.3	+0.9	+0.7	▲0.3	▲0.3	▲7.2	+79.1	+78.2	+0.3	
14/09	+0.7	(+4.4)	+0.2	+0.9	+4.2	+0.6	+0.1	▲1.8	+79.4	+78.2	+0.3	
14/10	▲0.0	(+4.3)	+0.2	▲1.1	+0.4	+0.9	+0.1	▲0.5	+79.2	+78.2	+0.3	
14/11	+1.1	(+4.9)	+1.1	▲0.2	+3.6	+0.2	+1.2	+6.0	+79.8	+79.0	+0.3	
14/12	▲0.1	(+4.6)	▲0.0	+2.4	▲5.0	▲0.5	▲0.1	▲1.2	+79.5	+78.8	+0.3	
15/01	▲0.4	(+4.4)	▲0.6	▲1.7	+3.3	▲0.6	▲0.6	▲0.7	+79.1	+78.3	+0.1	
15/02	+0.1	(+3.6)	▲0.2	▲1.6	+5.7	▲0.1	▲0.3	▲3.6	+79.0	+78.0	+0.2	
15/03	▲0.6	(+2.0)	+0.1	▲0.7	▲5.9	+0.3	+0.0	+3.2	+78.4	+77.9	+0.2	

### 3月の鉱工業生産は 前月比▲0.6%と2年 7か月ぶりの減少幅

15年3月の鉱工業生産は、前月比▲0.6%と減少幅が市場予想の同▲0.3%を上回り、12年8月以来の落ち込みとなった。製造業が同+0.1%と増加に転じ、鉱業が石油掘削などの落ち込みペースの鈍化により同▲0.7%とマイナス幅を縮小した一方で、公益が気温の上昇を受け同▲5.9%と06年1月以来の大幅な減少となった。

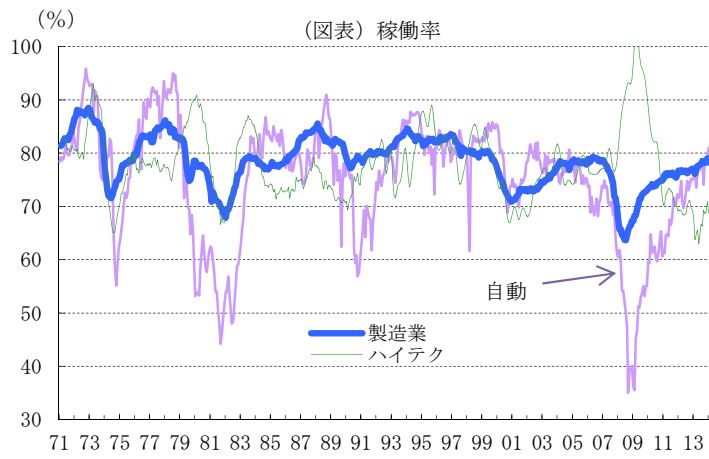
製造業は、前月比+0.1%と4ヶ月ぶりに増加した。2月に悪天候や西海岸の港湾ストの影響で、部品などの供給が停滞し、自動車・同部品生産が落ち込んだ反動により、自動車・同部品が製造業生産を+0.21%p押し上げた。ただし、自動車を除く製造業生産は前月比▲0.1%と減少しており、調整色を強めている。

稼働率は、鉱工業が78.4%、製造業が77.9%と低下した。製造業の稼働率は00年5月以降、約15年間80%を上回っていない。



(出所) FRBデータより作成

(年/月)



(出所) FRB

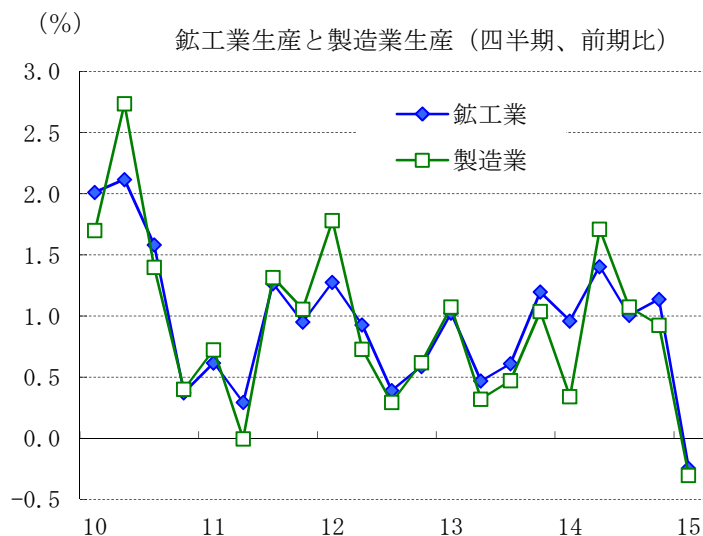
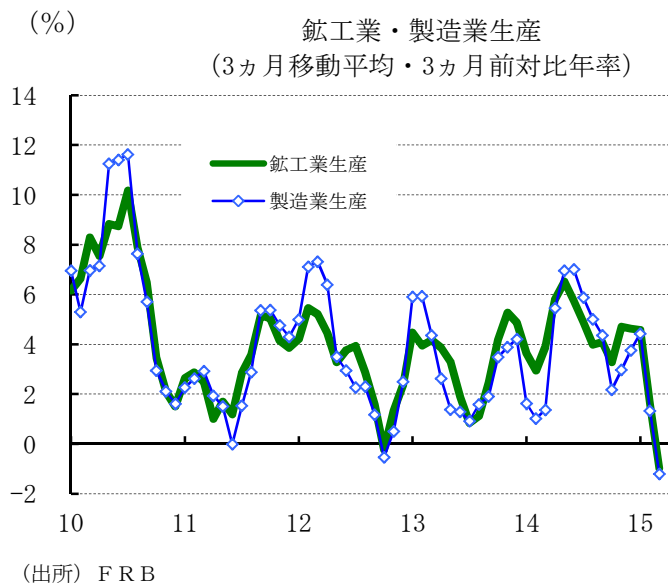
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**拡大モメンタムは失速し、四半期でも1-3月期はマイナス**

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が▲1.0%（前月+1.6%）、製造業生産が▲1.2%（前月+1.3%）と拡大モメンタムが失われた。

四半期では、鉱工業生産は1-3月期に前期比▲0.2%と10-12月期の同+1.1%から減少し、09年4-6月期以来のマイナスとなり、アメリカ経済が15年1-3月期に大幅に減速したことを示している。

今後、西海岸の港湾ストの影響が徐々に解消されるにつれて製造業の生産活動は回復するものの、在庫が過剰に積み上がっていることから、拡大ペースは緩やかなものとなる公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。